

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
破れ蓮	あらか 順一	薫風 絵夢	走吟	佳蓮	允孝 伯男	素風 走吟		曆文 ゆりあ		龍野	破れ蓮 光雲2	龍野 しんい あらか	秀子 走吟 田猫 鶴城	
<p>吉野山「奥千本」を巧みに表現されている。</p> <p>重ねはる深吉野に見る花の山</p>	<p>飛び去る渡り鳥を飛べない風見鶏が名残惜しげに見送っている光景を想像しました。遠近の対象がしつかり把握され、季語の「鳥帰る」を引き立てていると思いました。</p> <p>風見鶏見やる彼方に鳥帰る</p>	<p>南仏を想わせる、まさに絵画的な作風である。青い海をバックに描かれるのはモンローウオークかな、ドキドキ。</p> <p>イーゼルを立てる海岸夏近し</p>	<p>蜘蛛の巣を噛んだとみたのが秀逸。</p> <p>花冷えや蜘蛛の巣を噛む阿吽獅子</p>	<p>白バイの右折のほうに花の雨</p>	<p>奥様が先に旅立たれたのでしょうか。呼んでも言葉が返ってこないのは怖いですね。胸の中に居ますね。</p> <p>もう春よ声弾ませた妻居らず</p>	<p>お遍路さんの敬虔な姿が良く描かれています。徒遍路というだけでポイントです。私は四国霊場4巡しましたがすべて車でしました。</p> <p>落陽をおろがみ終ふる徒遍路</p>	<p>花海棠老いのつれづれ宥むかな</p>	<p>花を抱えて墓参りする仲の良い子供達の姿が見える。映像がよく見えます。</p> <p>散る花の道登り来て父母の墓</p>	<p>スイーツピー合成音の改札機</p>	<p>千年の歴史見て来し老桜</p>	<p>三春の滝桜を想起させる。大枝垂れ桜を見ているとまさに圧巻。花浄土の世界。</p> <p>大桜枝垂る山家や花浄土</p>	<p>名札外して万感の思いに共感。今日で最後、という寂しさと、巣立ちの希望とを感じました。</p> <p>卒業や名札を外す下足箱</p>	<p>蚕が月を齧ったという表現が面白い。こういう句も楽しいですね。今月の月の満ち欠けを調べたところ、六日から十一日まで、月がほぼ見えないことが判明。お腹をすかせた蚕さんが犯人だったとは。俳諧味は兎も角新しいチャレンジに軍配。</p> <p>それじゃ君、蚕は月も齧ったと？</p>	<p>蛙青むつけ置き洗い体操着</p>
薫風	小林土璃	青木鶴城	ありぎりす	新井のり子	森佳蓮	破れ蓮	高原ひろし	佐藤蓮花	しーしー	西村青夏	松田素風	檜鼻ことは	松岡拓司	太田怒忘

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四月
		風舎 幹子		稀香 久夫 絵夢		暦文 龍野			絵夢 蝸牛 あらか	音思 光雲2	怒忘				
若芝ややさしく突く土踏まず	一万歩一步踏み出す迎春花	花の宴ステップ軽ろし兄八十路 <small>帰雁の一群の懸命な姿が浮かんでくる。明るくて楽しいお兄様のご健在でよろしいですね。一年前に亡くなった兄を思い出します。</small>	陽炎や野に床敷いて俳談す	花見客分けて囃すやチンドン屋 <small>花見の人出の中でちんどん屋のパフォーマンスが上手く表現できている花見の一面がよくあらわされている良い句だと思いました。太鼓、喇叭、賑やかなチンドンは桜の下が似合いますね。</small>	枕木をそつと彩る花吹雪 <small>リフレインが巧み。</small>	惜春や閉づることなき阿修羅の目	夜のほどろ風にこぼるる夏千鳥	小雨降るソメイヨシノの花びらの	釣り堀の釣れぬ至福や目借時 <small>うつらうつら！この至福の時こそ太公望の醍醐味のかな。蛙ならぬ釣り堀の魚に目を借りられたのでしょうか。「目借時」が「釣れぬ至福」の種明かしになっていて面白いです。</small>	廃線のぽつんと駅舎花吹雪	花冷や膝にきつ目のサポーター <small>桜を満喫されたあと、お身体大事にされてください。</small>	切り株の樹液の染みる草若葉	息継ぎをしつつ目指せり花の山	落椿地に咲きし如朝の庭	
朝香	いさむ	和田イチ子	秋谷風舎	俳爺	石関六弦	後藤允孝	しんい	雪待月田猫	新 暦文	くるみ	ひろ志	翠可	幸子	衛	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四月	
たか子 ゆりあ 喜夫 風舎	高原 くるみ			素風 朝香		允孝 田猫	のり子		俳爺 しーしー				土璃 凡士 たか子 ゆりあ 伯男	ことは 一葉 しんい 久夫 拓司 ありぎりす		
いきなりの春に初音は調わず 急な春の暖かさに面食らつたのかウグイスも本来の美しい鳴き方が。納得です。気候変動を「初音は調わず」の表現が秀逸です。「いきなりの春に」、作者の優れた季節感と表現力が伝わってきた。「初音は調わず」の表現も斬新で、いきなりの春に、鶯も戸惑っている様子が伝わってくる。	海鳴りの間遠となりぬ蒸鯨 冬場に荒れる海も蒸鯨を作る頃にはゆつたりとした春の海になるのでしょうか！	吉野山行きなづむかに春の月	風光り瑠璃色弾き水面刺す	夜桜や木末（こぬれ）は月に掛りをり 夜桜と月という春らしい題材を上手く取り上げている。中七、下五がとても美しく、ロマンチックな句。	朝靄（もや）の雫のレンズ草青む	瀬戸内に鉄の灯消ゆる春の暮 製鉄所が廃工場となったのでしよう。灯がまたひとつまたひとつと消えるさまは本当に侘しいものです。いつもの平和な夕暮れなのか、先月十一日に防衛相が跡地を防衛拠点とする発表した瀬戸内製鉄所の七十二年の歴史を惜しみ、春をも惜しんでいるのか。下五も綺麗で沁みる句。	幸せの隣にいるよミモザ咲く ミモザの鮮やかな黄色が目に見え。	春炬燵出会ひの頃に花が咲く	四車線越えてまだ舞う花吹雪 花吹雪の舞い様を四車線を越えてという措辞に脱帽。広い景色が見えてきます。	跡目継ぐと決めし心や松の芯	花の雨原稿用紙依存症	振り向けば濁り拡がる植田かな	シャボン玉とぶ風の産卵のごと 「シャボン玉」の「風の産卵」との見立て、納得性があり、詩的であり見事。「風の産卵」がびたり、今回の選はすべて破調、試してみたい。シャボン玉を風の産卵と比喩したところが巧みにあります。納得です。風の産卵の視点が素晴らしい。	母の名で我を呼ぶ父花朧 切ないですね。母の名で父から呼ばれる子の切なさや伝わる。少々状態のお父様、身にたまされません。認知症の母を持つ身なので共につまされました。三人の登場人物の配置の妙。終わりのスムーズで共感を喚ぶると思えます。認知症が進み母と判別できなくなつた父だ。夜の花見に付き添い介護する優しい娘である。哀しくもやさしい句です。人生は花朧色をして、特選にしたいレベルです。切ない思いが伝わります。お母さんをして、くりでいらつしやるのです。お父さんの心の中には、お母様がいらつしやるのです。		
霜里	河野凡士	丸山マスマ	山川充	安田蝸牛	かげろう	龍野ひろし	ゆりあ	伯男	横井あらか	荒一葉	網野月を	巻木光則	光雲2	みづる		

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
		音思 素風	喜夫 風子						ことは 霜里 風子 鶴城	かげろう	凡士 ありぎりす			
永き日の始めの一步の欠伸かな	岩陰の孫いずこそ磯遊び	春の夜や闇に紛るる恋心	出征も出生も見し木の芽山 <small>山は毎年花を咲かせ続けるが、人間の一生はなんとちっぽけで愚かなものなのかが「出征、出生も見し」で表現され奥深い。里山の木々はこの村の歴史をじつと見つめて来た。 狂おしい胸のうちがうまく描かれています。ロマンチックな句である。</small>	山国の「自由民権」春早し	惜春や句帳に夕日及びくる	幼子の手に花びらの舞い込めり	食べ頃の竹の子顔出す称名寺	一飛びの子ら越ゆる川春の夕	病室の母は新緑眩しがる <small>長く入院されているのでしょうか、ご快復をお祈りします。窓を開けても内と外を隔てるものの哀しさ。病人の心理と表情がよく出ています。病氣入院している人にとつては窓の外の変化が一際感動的。</small>	妻のるす我挑戦の菜飯かな <small>初挑戦の料理は連れ合いには内緒で（笑）。</small>	ピザはリコッタ玉蔵院は花吹雪 <small>まったく関係ない事象が並び立っている不思議。ピザと花吹雪の連想。手練れの句ですね。</small>	催花雨やもうすぐ来ると影を待つ	花盛り塀にも飾る植木鉢	催花雨や希望の町を染めにけり
持永喜夫	寒立馬	日高道を	中島走吟	染谷風子	倉田詩子	羽島秀子	佐藤幹子	岡本たか子	本橋稀香	渋谷きいち	森下山菜	立野音思	総太郎	絵夢

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
六弦 高原			怒忘 拓司	曆文 のり子 音思 マスミ ありぎりす	俳翁 蝸牛		薫風	月を			喜夫			
春光に押されて往くや笹の舟 <small>春光の明るさを感じられる気持ち良い句ですね。</small>	旅の宿差しつ差されつ桃の花	土筆煮て美味くも無きをひと褒めす	春の夜生きていたかと電話くる	土筆摘み電車が来れば手を振りて <small>冬が明けてやつと春、そして夜、という時こそ。お電話くださった方と、詠み手さんの関係性の深さを思いました。ほんとうに事態が起ころうな予感。リアルさとは何かを考えました。</small>	鞆を漕ぎて雲居とすれ違ふ <small>たかがブランコを漕いでいる句だが、雲居とすれ違ふは新鮮な詠み。「雲居とすれ違ふ」という措辞が効いている。</small>	鳥交る何がな気負ふストレッチ	祇園へと産寧坂の花月夜 <small>清水から祇園へと産寧坂の夜桜が目には浮かぶ。</small>	逆光の人の横顔花篝 <small>「花篝」が句の奥行きを感じさせます。</small>	春深し昭和の歌の聞こえ来る	花の窓袋をごろんかりんとう	駅前丸きポストへ春ごころ <small>丸きポストが昭和時代を懐かしみ、ほのぼの感が春ごころを表現させ、昭和は良き時代だったとしみじみ思います。</small>	私用にて（春眠摂り過ぎ症候群）	藤の花零るる影の紫に	待つだけの磯巾着といふ男
小林土璃	森 佳蓮	ありぎりす	新井のり子	佐藤蓮花	破れ蓮	高原ひろし	松田素風	しーしー	西村青夏	太田怒忘	檜鼻ことは	松岡拓司	小林京子	平野久夫

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四月
高原	しんい 六弦	久夫 くるみ 京子 月を	稀香 佳蓮	田猫	山菜	俳爺	山菜		一葉 怒忘			土璃 山菜 たか子		破れ蓮 ひろ志 蝸牛	
花六つ開花宣言雨模様	子に帰る白寿の顔の桜色 お顔の桜色が推して知るべし、いつまでもお元気で！ たった一行なのに、はつとさせられました。	先生のあだ名そろそろ風薫る あるあると季語との相性がびつたりだと思いました。新任の先生と生徒の距離が縮まってきたのでしょうか。中七の措辞、下五の季語、全体の軽みが良いです。金八先生ですね。	妙齡の傘滑りゆく花の雨 若い女性が雨をもものともせず颯爽と歩いている。花の雨の取り合わせが効いている。	終値は右肩上がり風車 株が上手くいって、ゴールドデンウイークの資金を手にしたパパの顔が浮かびました。風車は「上手く回っている」と「風光る季節のドライヴ」を思わせます。よい休暇を！	隅田川月は東に花は葉に 蕪村の本歌取りがうまく決まりました。	花散らす雨となりたり惜春忌 桜が咲くと不思議と雨が降る。虚子の忌日にも。	霏るもアイメイクしてレジを打つ おもろ俳句！	緩やかに乱れし机上夏近し	飛石はをとこの歩幅春寒し かに飛び石の幅は広い、女には特に、和服ならなおさら。なるほど、確かにと思いました。自身の身体記憶もよみがえりました。	卒業の無き句の道をとぼとぼと	剥き出しの自我の愛らし春の宵	あぎとふの鯉に崩るる花筏 よく見るが、表現の難しい光景と思う。これを端的に句にして見事。「あぎとふ」という古語が印象的。折角の美しい花筏に鯉が水面現れ、口を開閉させたため台無しになってしまった。	母の手の下ろすベールや霞草	亀鳴くや鬱々として夜の底 「亀鳴く」という情緒的な季語が深い夜の闇に合う。季語「亀鳴く」の不思議な世界へ導かれるような気がする。春の夜の怪しい雰囲気伝わわる。	
いさむ	和田イチ子	後藤允孝	俳爺	石関六弦	新曆文	しんい	雪待月田猫	ひろ志	くるみ	衛	翠可	幸子	青木鶴城	薫風	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
薫風			一葉 順一		霜里		土璃 六弦		ことは 允孝 朝香 京子 稀香 秀子 ひろ志 マスミ	拓司	しーしー 風舎		霜里 マスミ かげろう	
影向の如くかがよふ朝桜 「影向」「かがよふ」と素晴らしい表現である。	選りぬきの役者競演春歌舞伎	異名なりうまのあしがた咲き誇る	ラファエロの若き自画像山笑ふ 上品な笑いなのでしょうが。	花篝燃ゆる花卉の光かな ベレーボーを被ったラファエロの自画像と季語「山笑ふ」の取り合わせがユニーク。自画像も内奥は笑って居るのかもしれない。かなり	亡き母のクレカを切りぬ花吹雪 生きた痕跡が薄れていく、静かな悲しみ。	記念日に白詰草のくびかざり	春の虹犬に吠えられ消え行きし ユーマアの中にも、春の虹のはかなさがよく伝わって来る。春の虹は儂いんです。	床に就く鮎解禁の前夜かな	少年の「僕」から「俺」へ葱坊主 少年の成長を見事に詠まれました。声がわりがすれば僕から俺と、男らしい言葉が返ってきます。下五の葱坊主がいいですね。思春期に入った少年は口調も変わってくる。少年の変化と葱坊主の取り合わせが良い。僕から俺への自称の変化に、少年の成長の一端が見える。「僕」から「俺」へ、少年の成長とはにかみを感じられる。大人への一歩を踏み出した君。内容に季語が合っています。	時間にはなれない空間にはなれる ひとつの問いのように浮かび上がります。作者の意識の高さを好感しました。	囀や包丁軽く朝支度 包丁も囀る、作者も鼻歌で。小鳥の春らしい鳴き声と共に、春を迎えた作者の喜びを、「包丁軽く」と詠んだ。さぞ心の満たされた朝食になったことだろう。	釜鳴りの神事見届け落つ椿 記憶という容れ物のおかしさ、忘れると失うは違うと思いたい。この頃の私にもよくあること。思い出すのに苦労する年齢のあるある感がい。	花の名を思ひ出せずに春の暮	六十年ぶりの同窓会や春の服
安田蝸牛	丸山マスミ	山川充	龍野ひろし	かげろう	横井あらか	ゆりあ	伯男	巻木光則	荒一葉	網野月を	朝香	光雲2	みづる	秋谷風舎

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	水明インターネット句会（選句・選評） 令和四月
		凡士 朝香					のり子 秀子 伯男 風子 幹子 順一	風舎			光雲2 かげろう 京子				
茫洋とただひろびろと春の海	春泥や国連安保理機能せず	若葉風おにぎり二個分の散歩 <small>おにぎり2個のエネルギーは？と考えさせられる。若葉風に吹かれての散歩、すがすがしいですね。中七が楽しい。</small>	教会へ続く坂道さくら道	惜春や共に帰れぬ君と在り	娘来て愚痴もにぎやか春夕べ	古伊万里を飽かず眺むる日永かな	咀嚼する牛の鼻先風光る <small>春の眩しい日差しを牛の鼻先で表現。牛の鼻先に焦点を当てたのが良い。のどかな感じがします。土手に繋がれ草を食む牛の鼻先に春を発見した事が秀逸。牛のぬれた鼻先をおもいました。鼻先に季節が良くさいいて健康的な句になりました。春の野、踏青など春らしい感覚を牛に託した巧みな句かと。</small>	芝川の土手を余さぬ花菜かな <small>土手いっぱい咲いた菜の花を、「土手を余さぬ花菜」と詠んだ。春爛漫の景が浮かんでくる。</small>	去年今年余命を超えて花見たり	花の塵ここにも一つバンクシー	春風やけふ改定の時刻表 <small>春風と時刻表の取り合わせがいいですね。旅行計画は新時刻表で、喜びが季語に集約されている。春の新たな気持ちを感じられます。</small>	道化師のパントマイムや花の下	落花舞う左右にキャッチランドセル	子らの手に初めてのSuica駅四月	
寒立馬	染谷風子	中島走吟	佐藤幹子	倉田詩子	羽島秀子	渋谷きいち	岡本たか子	本橋稀香	総太郎	森下山菜	立野音思	河野凡士	絵夢	霜里	

			132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121
													くるみ 月を	しーしー
											春惜しむエディットピアフ映画会	「ノルウェーの森」読了す春夕焼	春潮や海軍基地を浮かせけり <small>海軍基地という固い言葉がほぐれるほど長閑な春の海を想像しました。タイムリーな句ですね。</small>	白き指戦く吾に春の色 <small>艶っぽくて、怖そうで。</small>
											平野久夫	小林京子	日高道を	持永喜夫